

授業科目名	保育実習 I b	教員名	山下 愛実	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
科目番号	JIS305	配当年次	3 年前期		幼稚園教諭	選択
					保育士	必修
授業形態	実習				こども音楽療育士	
単位数	2 単位				情報処理士	
科目						
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	福祉の現場において学内で学んだ福祉の知識や技術を生かして、直接関わる中で、施設入所児・利用児（者）の理解や実習施設への理解を深め、業務の実際を体験的に学習する。業務に参加し、実習する施設の理念や方針、各種実習施設の一日の流れや入所児・利用児（者）及び保育士の職務について理解するとともに、さまざまな知識・技術を体験的に学ぶ。また、記録等を通して専門職としての施設保育士の役割や職業倫理について理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や利用児(者)とのかかわりを通して利用児(者)への理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、利用児(者)及び保護者への支援について総合的に理解する。 4. 支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 施設保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、学科のディプロマポリシーに掲げる「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている」「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている」「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている」「5. 教育実践力を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	3年前期終了後、学外の児童福祉施設（乳児院、児童養護施設、児童発達支援センター等）においておおむね10日間実習を行う。実習内容は観察・参加実習とする。社会的養護を担う施設で施設入所児・利用者の生活に寄り添い、施設保育士の姿に触れ、観察や関わりを通して、各実習施設の役割や機能についての理解を深める。また、利用児・者や施設保育者及び支援員の職務について学ぶ。また、アクティブラーニングとして、実習に臨むにあたっての自己課題に基づき、自ら問いをもって意識的に実習に取り組むことに加え、実習記録を作成し、職員との対話を通して、自身の入所・利用児（者）へのかかわり方や保育者の援助の見方・考え方を捉える力を養い、主体的に学びを深める。					
履修条件・注意事項	保育実習 I bを実施するためには、実習実施条件（成績状況等）を満たさなければならない。					
授業計画	<p>主に、観察・参加実習とする。おおむね10日間の実習を通して、下記の事柄について学び、習得していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設の役割や機能（目標 1） <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習する施設の概要等を知る。 (2) 各実習施設（福祉施設）の社会的役割や目的、機能を理解する。 2. 入所・利用児(者)への理解（目標 2） <ol style="list-style-type: none"> (1) 利用児・者の生活に寄り添い、尊重する。 (2) 実習施設における施設保育士の援助等の観察・関わりを通して理解しようとする。 (3) 実習日誌の作成を通して、自分の実習、特に自身の入所・利用児(者)への関わりを振り返る。 3. 入所・利用児(者)及び家庭の支援・地域社会との連携（目標 3） <ol style="list-style-type: none"> (1) 入所・利用児(者)及び家庭の支援の実際を理解する。 (2) 健康や安全への配慮を理解する。 (3) 家庭や地域社会との連携の重要性を理解する。 4. 支援の計画・観察・記録及び自己評価等（目標 4） <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援における計画の意義や内容を理解する。 (2) 実習日誌の作成を通して、省察を行い、実習中に得た気づきや経験の意味づけを行う。 5. 施設保育士の業務内容や職業倫理（目標 5） <ol style="list-style-type: none"> (1) 専門職としての保育士の業務内容について具体的に理解する。 (2) 施設内における異なる専門性をもつ職員間の役割分担や協働について理解する。 					

	(3) 入所・利用児(者)の人権の尊重、守秘義務の遵守、個人のプライバシーの保護等について具体的に学ぶ。
授業外学修時間の確保について	毎日の実習の振り返りを実習日誌に記述し、実習施設に提出する。また、実習施設より課された課題を期日までに仕上げる。
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設による評価を100%とする。 ・60%以上を合格とする。
テキスト	
参考書・参考資料等	参考資料等：授業での配布資料
担当者からのメッセージ	実習先との報告・連絡・相談を欠かさず、自分の判断で動くことのないようにすること。判断が難しい場合は、必ず実習園の実習担当、または養成校の実習担当に相談すること。責任感をもって行動してほしい。
オフィスアワー	毎週 金曜日 9:05~10:35 (メール等でアポイントを取る)
備考	